

### 1 自己評価及び第三者評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2892300043		
法人名	株式会社やすらぎ		
事業所名	グループホーム松風		
所在地	兵庫県三木市吉川町有安303		
自己評価作成日	令和 5年 1月16日	評価結果市町村受理日	令和5年4月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/28/index.php?action=kouhyou_pref_topjigvosvo_index">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/28/index.php?action=kouhyou_pref_topjigvosvo_index</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉市民ネット・川西		
所在地	兵庫県川西市小花1-12-10-201		
訪問調査日	令和5年2月7日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念の「笑顔あふれる家族」を達成するために、明るい家族的な雰囲気の中で職員ひとり一人が笑顔忘れず、ご利用者様の心からの笑顔を引き出せる様接している。また、当施設は大自然に囲まれた中にあり、日本で環境の一番良い場所に位置している。施設内の畑では四季折々の野菜を作っている。ご利用者と収穫や料理などを行うことによって、作る喜び食べる喜びを感じていただいている。ご利用者様ひとりひとりの思いを大切に、その人らしく安心して心穏やかに過ごしていただけるように配慮し支援している。

#### 【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人創設者のバトンを受け、「笑顔あふれる家族」のような温かいホームを目指している。管理者は、利用者や家族、職員だけでなく、ホームに関わる全ての人に向けたメッセージとして伝え、つながっていきたく願っている。職員も、利用者のあるがままを受け入れ、家族の思いでもある最後までここで暮らせるよう利用者や家族の絆を今以上に深め、利用者、家族、職員が共に一つの家族となれるよう信頼関係を築いている。そのための働きやすい職場環境の整備や人材育成には特に力を入れ、看護師資格を持つ職員を含めた一体となったチームケアをベースに、管理者自身も、積極的に職員への気配りやサポートに徹している。恵まれた在宅医療と連携した医療面での充実は、なにより利用者、家族の安心、やすらぎをもたらし、地域からの期待も大きいのではないだろうか。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑顔 あふれる 家族」の理念をホーム内に掲示し、職員が常に意識し実践できるようにしている。ホームに関わる全ての方に思いやりの気持ちで接するように心がけています。	開設以来、「笑顔」「家族」を念頭に置き、思いやりあふれるホームを目指している。新体制になってからは、これまで以上に理念を意識し、事業所に関わる全ての人にもつなげていきたいと考えている。そのためにも、理念をもう一度掘り下げ、必要であれば見直すことを検討している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に加入しています。コロナ禍以前は、年1回の夕涼み会の実施。月1回のパンの移動販売の実施。地域の方に月1回ボランティアフルート演奏等の来ていただいていた。地域の呉服店でスタッフのユニホームや入居者様の衣類を購入している。	これまで築いてきた地域とのつながりが、やむをえず途絶えているが、代表者の長年の地域との関係性、つながりがあり、少しずつ再開していきたいと考えている。事業所からも声をかけながら、協力を働きかけていくことを検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「認知症介護のことでお困りの方はご相談ください」と、地域の広報誌等の記載し呼びかけている。コロナ禍前までは、地域の会合に出席して認知症に対する理解を深める活動をしていました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍前までは、2か月に1回、定期的に運営推進委員会を開催し、活動報告・ヒヤリハット報告・情報交換を行い、出された意見を参考に改善できるよう取り組みサービス向上に生かしている。	まだ、書面による報告しかできない状況で、対面での開催の目途がたっていない。報告内容については、事故報告だけでなくヒヤリハットと合わせた報告に改め、わかりやすく具体例な記載も検討している。報告書への意見等は書面で返信してもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナ禍前は、運営推進会議で定期定期に情報を交換する機会があった、(コロナの為に中止中)現在も、随時、不明なことがあれば電話やメールで問あわせ連携をとっている。現在は書面にて開催。意見等あれば書面で返信していただくようにしている。	市担当者との運営推進会議を通じた情報交換はできていないが、不明なことやささいなことでも折りに触れ、電話等で相談している。特に、コロナ感染に関する内容については、頻繁にやりとりした。今のところ事業所連絡会も開催されておらず、個別に他法人の事業所と情報交換することもある。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在も、玄関・門にセンサーを設置し、安全に過ごしていただけるように配慮している（夜間は、防犯の為施錠している。ご利用者様の言動に留意し対応している。 ※センサーマット：次の行動支援の為使用と考え拘束としないとスタッフ間で共有している。 ※安全ベルト：見守り不可能時に使用（家族には説明し、書面で了解を得ている。スタッフと情報共有、使用に関する記録あり）※介護パジャマ：皮膚疾患がある為、夜間のみ使用。	現在、利用者の行動把握のためにベッドサイドにセンサーマットを置き、夜間のトイレ誘導を行っている。また、頻繁な立ち上がり予防のための安全ベルトや皮膚疾患の利用者に夜間のみ専用パジャマの着用を、期間限定で行っている。毎月の会議で、状況確認、使用にあたっての検討を行い記録に残している。玄関・門の施錠は、利用者の状況から昼間も行っている。	昼間の時間、例えば入浴のない時間や利用者がくつろいでいる時間など、特に施錠を必要としない時間帯も考えられるのではないかと。少しずつでも開錠できる時間が持てるよう工夫していただきたい。
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	認知症神戸モデルの講義に数名参加、高齢者や認知症についての考え方を学び、言葉一つが虐待になるとミーティングを利用してスタッフと共有した。	毎月の会議の中で、身体拘束及び虐待防止に関する検討、研修を行っている。今回は、外部研修に複数名の職員が学び、新たな気づき、発見を得ることができ、職員間で共通認識を図った。管理者は、職員間とのコミュニケーションを重視し、積極的に声をかけるよう努めている。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用	現在成年後見人の制度利用されている方がおられる。三木市社協から講義に来ていただきスタッフ全員が制度を知り、他のお困りの方へも成年後見・権利擁護相談が受けられるよう努めている。リーフレットを設置し、ホームへ来られる方への情報提供も行っている。	今期は講師を招き、全職員で制度の理解を図り、資料もいつでも見られるよう用意している。契約時での情報提供だけでなく、家族の状況をみて必要に応じて、積極的に専門機関への紹介なども行っていく考えである。現在、活用している利用者があり、身近に学ぶことができている。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご入居希望の方には松風に居住環境確認の為見学してほしいことを伝えている。ご本人が来られない場合でも、面談という形でお会いさせていただき、ご入居時に必要なものをご用意させて頂けるようにしている（歩行器等）。契約書・重要事項説明書をわかりやすく説明し、不安や疑問点を確認し、理解していただけるよう取り組んでいる。報酬改定の際には、改めて説明し同意を得ている。	契約時に重視していることは、看取りに関すること、体調の急変時など、その時に慌てなくてすむよう事前に対応方法についての意向を確認し、文書で残している。事業所でできること、できないことを説明し、納得したうえで締結している。事前の見学をお願いし、事業所の環境、雰囲気を感じてもらっている。	

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍前は、運営推進会議には、ご利用者様とご家族様に出席していただき、意見を伺っていた。現在も、ご利用者様の意見を頂けるよう日常会話にも思を寄せ、信頼関係が構築できるよう取り組んでいる。	現在、利用者とは窓越しやリモートでの面会であるが、家族からの面会の希望は多く、来訪時に話を聞き相談している。毎月、利用者の様子を写真で報告し、電話でもこまめにやりとりしている。家族とのコミュニケーションを大事にしており、ささいなことでも共有を図っている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現在、代表者妻が管理者となり現場でスタッフと共に働いている。共に働く中で考え、改めて、聞き取る機会も設けている、意見や提案がしやすいよう心掛け、その都度改善できるよう話合っている。	新入職員も馴染み、体制は落ち着きつつある。代表者及び管理者は、何事においても職員一人ひとりの意見や意向を確認し、現場を最優先に考えている。会議だけでなく、申し送り時や日々の業務を通じて、積極的に意見を聴くようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現在は代表者も管理者と共に松風に出勤することが多く、職員と話す機会を持ち、日々のかかわりから、現状維持に努め、就業環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外部の研修を受ける機会を確保している。さらに毎月内部研修を行っている。(ミーティングを利用し)		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍前には、三木市高齢者ケア研究会、グループホーム連絡会へ参加し、他事業所との交流と意見交換を行いサービスの向上に役立っている。(現在も同業者等とは電話、メール等で連携をとっている。)		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	前年・今年で3名の方の新規ご入居あり。何れの方についても、相談や面接時に、ご本人の思いを少しでも多く聞き取り、新しい環境にも安心していただけるよう努めています。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居前、ご入居後(面会時・電話等で)家族の思いを聞き取り、職員間で情報共有できるように努めています。ご入居後のご様子は、ご家族様の状況にあわせ詳細にお伝えし、家族との連携・信頼関係の構築に努めています。		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	スタッフ一同で、ご本人、ご家族との信頼関係構築に努め、その中で状況と、望んでおられる生活を勘案し、必要に応じて他のサービス利用も含め現状と今後の可能性を話し合っている。		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフでご本人の生活歴を把握、意思を尊重することを共有し、自身で行えない部分を支援していくことを基本に支援している。日々の生活の中で、本人と共に支え合う関係が築けている。		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何事も決定は「家族様の意見を聞いてから」と思っており、常に連絡ができています。また、ご入居者様のご様子を毎月のお便りで報告したり、面会時に日頃のご様子をお伝えする等、ご家族様と話す機会を持ち、思いや望まれていることをくみ取るようにしている。ご家族にも参加していただける行事を催しご家族とご利用者・職員の共有の時間が過ごせるように努めている。(コロナ禍の為、リモート面会・窓越し電話会話面会等の対策をとっています)		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご入居も近隣の方が老人会の記念品を届けて下さることもあり、馴染みの方との関係も維持できていると思っています。昨年は市主催の落語会に参加しました。コロナ禍の中、手紙・電話等を利用して対応しています。	昔の知人の来訪もあるが、家族との関わりやつながりは大事にしている。同居以外の親族の来訪も多く、職員は、家族等が不安を感じないよう日々の利用者の様子をこまめに伝え、気軽に来訪できる雰囲気づくりに努めている。中には毎週リモートで話をするのを楽しみにしている家族もいる。今後は、徐々に交流の機会を工夫していく考えである。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々のご利用者様の関係性を考慮し、交流できるように座席を配慮し、ご利用者様同士が交流できるよう職員が話題提供を市ている。できないことを出来る利用者様がお手伝いをし支え合っています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	最近では、特養と病院(精神科)に転居されました。転居先の援助者(相談員等)に対して詳細に書面・口頭でお伝えしています。契約が終了した後もご家族との連絡は取りあっています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時だけでなく、随時、アセスメントを行い、その時々、思いや意向の把握に努めている。またご本人や家族への聞き取りを随時行って、希望や意向の把握を行っている。自身の思いが表現できるよう聞き取り方にも工夫している。	利用者の好きなことや得意なこと、興味のあることなどを引き出し、場面に応じて聴き取っている。把握しにくい場合は、表情や行動から様子を見て、察するようにしている。時には、画像を見てもらいその様子から汲み取ることもある。家族の意向も参考にしながら、本人本位を重視している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人や家族、サービス提供者より情報収集。入居前の施設に訪問。入居後もご本人との会話の中から入居前の入居前の生活状況の把握に努めている。(ご主人の自慢話を伺うことも楽しみです)		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様お一人お一人に職員それぞれが実施したことや、感じたことの情報を記録し、情報共有に努めている。日常生活以外にも、レクリエーション等で出来ることの把握にも努めている。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ報告等により、ご利用者様に合わせ随時検討、モニタリングを実施し、月1回はカンファレンスを行っている。また日々の小さな変化や気づきを申し送りノートに記入し職員で共有している。	毎月のカンファレンスで、日々の利用者の状況をもとに、全職員で3か月毎にモニタリングを行っている。本人の思いや意向を尊重し、家族の意向を反映したその人らしい計画となるよう心がけている。利用者個々の具体的支援内容が、記録の際に確認しづらい綴じ方となっている。	利用者の具体的支援内容に沿った日々の記録やモニタリングとするためにも、支援内容を記録する際に、職員が確認しやすい工夫をしてはいかがか。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	出勤のスタッフにより、個別の記録の実施、申し送りノートを利用、様子の記録、気づきや提案を記録し、職員が情報を共有できるようにし、随時相談し、実施している。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様からのその時々要望に応じた対応ができるように、取り組んでいる。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア・スーパーマーケット等の店舗・訪問歯科・美容院など地域資源を活用(コロナ禍の為訪問歯科・訪問美容以外は中止している)		
30	(14) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の要望を尊重し医療機関の選択をしていただいている。状況により必要な診療科目受診の場合はご家族に相談し判断している。受診の際には家族に同行、医療機関に情報提供する等を行い滞りなく診察が受けられる様支援している。	全員の利用者が、2週間に1回の訪問診療を受けている。他科受診が必要な場合は、主治医の紹介状により家族が付き添うか、状況により介護タクシーを利用している。毎週、歯科医の訪問診療もあり口腔ケアも受けている。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師・訪問看護ステーションと契約。状態観察を行い、日々の軽微な変化にも早期発見ができるよう努め、主治医に随時連絡・報告・相談し適切な受信、看護・介護が受けられるよう指示を仰いでいる。		
32	(15) ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、同席し口頭にてご本人の状況を伝えるとともに、情報提供書にて情報の提供を行っている。入院中にはご家族・地域医療連携室と連携を取りながら退院後の生活に支障がないように取り組んでいます。	入院は、協力医療機関や他市の医療機関であるが、事業所での生活状況等を情報提供している。入院中は地域医療連携室から、家族や主治医を介し情報を得て共有している。最近数名の入院者がいたが、いずれも早期に退院している。	
33	(16) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化し状態に変化があった場合はホームで出来ることを検討し、ご家族に状況とホームで出来ることを説明し理解いただいている。主治医にも報告し連携を図っている。	契約時に、全員が看取りを希望しており受け入れている。主治医が在宅医療に協力的であり、管理者が看護師である事と看護師資格を持つ職員が居り、訪問看護師の協力も得ながら、主治医と家族、事業所で確認を取り合いながら看取りをしている。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や緊急時に対応出来る様、マニュアルを作成している。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を2か月ごとに実施し、ご入居者も参加し緊急時の対応に繋げられるよう取り組む予定であったがコロナの影響により実現できていないが昨年12月にご入居者と共に避難場所を訪れる等の避難訓練を実施した。火災時には緊急事態であることが地域に伝達できるようサイレンを設置している。 ※災害に備え保存食(食料・水)を備蓄しています。	今年度は、コロナ感染拡大防止の為避難訓練の頻度は少なかった。地形から、浸水や地滑り等の被害の可能性は低い、災害時の避難場所等は把握している。地域の消防団から災害時の協力は得られるが、地域住民には協力の依頼等はしていない。	事業所で行う避難訓練に、運営推進委員や地域住民に見学だけでも参加の依頼をされてはいかがか。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者の性格や生活歴をスタッフそれぞれが考慮し、人としての尊厳を尊重した対応や声掛けを行っている。必要に応じ席替えを行い入居者様が穏やかに過ごせるよう支援しています	利用者の半数以上が意思疎通が取りにくいと繰り返して伝えたり、選択肢を示し表情等で判断している。利用者には、名字にさんを付け呼んでいるが、以前、野球の監督をしていた利用者「監督」と呼ぶ事もある。医師の診察時、聴診器等が必要な場合は別室に誘導している。利用者が入浴中、脱衣室と隣接の洗濯室に職員が入る事が、プライバシーの確保が不十分である。	浴室入り口に、「入浴中」の札を下げる等の工夫をしてプライバシーに配慮して頂きたい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者とのコミュニケーションを常に努めることによりご本人の希望や思いを聞き取り、好み等を少しでも多く把握できるよう努め、ご自分で決めれることを増やせるように心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に利用者様の立場になり、職員都合の支援にならないことに努め、その人らしい生活が送れるようご利用者に意思決定していただけるように努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様には訪問理美容サービスを利用した頂き、希望に応じた髪型にした頂いています。毎日着る衣服の選択もして頂いている方もあります。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の状態に合わせ、調理・配膳・下膳・片付けを行ってもらい、コロナ禍前までは昼食は職員も一緒に食事をとり、楽しい食事に配慮している。また1日の献立をホワイトボードに書き話題にし、食事が楽しみになるようにしています。	ご飯とみそ汁は事業所で炊き、業者から調理済みの副菜が届き利用者もそれぞれが出来る事を手伝っている。刻みやゼリー食を介助で食す利用者もあり、時にはお弁当を外から取る事もある。大方の職員は同じ食事を一緒に食しており、畑で収穫した野菜を使ったみそ汁や、代表が作ったお米のご飯が美味しいと喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お一人お一人の好みや体調管理を顧慮し飯食を決定。水分量についても摂取量の少ない方や水分制限のある方は特に留意し、摂取量を記録することで把握している。嗜好に合わせたものを提供し、適量摂取できるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科の指導を受け、各自の計画を作成し、毎食後ご本人の出来ない部分を援助しながら、個々に応じたブラシを使用してケアしている。		
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様全員に対して、トイレでの排泄を基本としている。排泄記録をつけることで、個人の排泄パターン・習慣を理解するよう努めている。利用者に合わせて声掛けをし誘導等必要な援助を行っている。	昼夜おむつを使用している利用者は1日に1回トイレに座り、夜間のみおむつ使用の利用者は、日中リハビリパンツに交換しトイレ介助をしている。自力でトイレに行く利用者も数名あるが、大半の利用者が、声掛けや、誘導等の何らかの支援を要している。トイレ誘導の回数を増やし、失敗が減った利用者がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者様全員の食事量・水分量を記録し、水分量の確保と、運動量が確保できるよう支援している。それでも排便見られないときは、医師の指示のもと緩下剤を使用。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	以前は週3回の入浴実施行っていたが、利用者様の重度化(ADL・介護度等)により、週2回を実施している。(足浴:毎日実施、皮膚状態、汚染等により追加での入浴は行っている)。重ならないように、ご利用者のタイミングで入浴できるよう支援している。	入浴は週に2回を基本としているが、希望があれば応じ柔軟に対応している。皮膚疾患がある利用者は、毎日足浴してその後に入浴している。おむつ使用の利用者は交換の度陰部洗浄をし、浴槽に入れられない利用者はシャワー浴で清潔を維持している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様おひとりお一人のペースに合わせて、過ごしていただき、ご本人の好みに応じた寝具等を準備し環境を整えている。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフ各自が理解できるよう薬情をファイルしており、薬の変更があった時には情報共有し、特に注意して様子観察を行うようにしている。配薬時と介助時の二度確認し誤薬のない対策をしている。服薬時には個々に合わせた介助を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人やご家族からの情報を聞き取ったり、日々の生活の中で知り得たことやレクリエーションを通じて発見したことなど、職員間で情報を共有し、ご利用者が役割を果たせたり、楽しみとなるよう取り組んでいる。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には、庭に出て、お散歩し、外のベンチに座ったり、畑に出たり、敷地内で外気に触れる機会を設けている。月に1度は全員で外出する機会を設けている(コロナの為中止中→ドライブをし、好んで選んだお弁当をホームで食べていただきました)ご家族の協力での個別の外出の機会も設けている(コロナ禍の為中止中)	高台にある事業所から一步出ると市街が一望でき、天候を見ての散策は利用者の日常となっている。畑で野菜の手入れや敷地での草引き、庭で焼き芋を楽しむこともある。希望に応じ、事業所から集落のお堂まで散歩をしたり、施設の代表や訪ねて来た後輩とキャッチボールをする利用者もある。利用者が家族の迎えで法事に行った事もある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍前までは外出して買い物の機会を設けていたが、現在は中止。玄関の自動販売機で好きな飲み物を購入していただいたりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りの出来る支援体制はあるが実施されていない(家族様、知人からのお手紙等はある、ご本人に渡している)家族・知人からの電話はコードレス電話を利用しプライバシーに配慮し対応している。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	装飾物や制作物を飾ったり、花植物で季節感を取り入れ、居心地よく過ごせるようソファの設置を考慮したり、BGMを流すなど配慮している。スタッフと共に事務所に入ってこられ、	玄関ロビーに利用者の作品や絵画を掲げ季節の飾り物を置いている。フロアの一角にあるキッチンから、職員は利用者の様子を観ながら食事の準備や片づけをしている。事務所は常に開放し、利用者は自由に出入りしている。フロアのホワイトボードにその日の出勤者名や、予定を記載し利用者に分かりやすくしている。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	いつも仲良くされている方同士が会話できるよう配慮しています。ソファでテレビを見たり、ソファで横になったり、自由に過ごされている。		
54	(24)		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	松風ご入居前に御自宅で使っておられた使い慣れ、馴染みのあるタンス、ベッド、調度品等を持参いただけるようご家族に依頼している。	職員手作りの表札に、文字の色や形を変えて記名し、利用者が自室を間違えないようにしている。居室は、利用者手作りの籠や習字、孫の結婚式の写真やひ孫の足型等を飾り、利用者個々の自宅の部屋のような設えにしている。	
55			○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お一人おひとりに合わせた居室の表札を工夫し作ったり、トイレ等の場所がわかりやすいように工夫している。身体状況に合わせて居室内のレイアウトを変えています。		

(様式2)

事業所名: グループホーム松風

## 目標達成計画

作成日: 令和5年3月25日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	利用者の行動把握のため、センサーマットを使用し、夜間のトイレ誘導を行っている。 外での店頭を防ぐため、玄関、門の施錠を行っている。 専用パジャマを使用している。	日中は玄関を開錠し、自由に園庭へ出られる。 身体を拘束しない、ケアに取り組む。	・9時～16時、玄関を開錠する。 ・夜間巡回を増やし、センサーマット使用者を減らす。 ・介護パジャマを使用しない日を少しずつ増やしてみる。	3か月
2	26	利用者個々の支援内容が確認しづらいため、個別ケアが出来にくい。	利用者それぞれにその人らしい支援ができる。	・記録時、確認できる様にカルテに入れる。 ・スタッフ全員が利用者1名ずつ担当を決め、ミーティング時にそれぞれ発表し、話し合う。	5か月
3	35	今年度は避難訓練の頻度が少なかった。 地域住民に依頼していない。	地域の方々に避難訓練に参加してもらう。	・避難訓練への参加の声掛けをさせて頂き、災害時すぐに対応できる様話し合っておく。	5か月
4	36	脱衣所に洗濯機があるため、入浴時にスタッフが入ることもあり、プライバシーの確保が出来ていない。	利用者のプライバシーの確保ができています。	・入浴中の札をドアに付ける。 ・間仕切りを作る。 ・ドアを開けた時にすぐ見えないようにのれんをする。	2か月
5					月

(様式3)

### サービス評価の実施と活用状況(振り返り)

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】		取り組んだ内容	
実施段階		( ↓該当するものすべてに○印)	
1	サービス評価の事前準備	<input type="radio"/>	①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
		<input type="radio"/>	②利用者へサービス評価について説明した
		<input type="radio"/>	③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
		<input type="radio"/>	④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
		<input type="radio"/>	⑤その他( )
2	自己評価の実施	<input type="radio"/>	①自己評価を職員全員が実施した
		<input type="radio"/>	②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
		<input type="radio"/>	③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
		<input type="radio"/>	④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
		<input type="radio"/>	⑤その他( )
3	外部評価(訪問調査当日)	<input type="radio"/>	①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
		<input type="radio"/>	②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
		<input type="radio"/>	③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
		<input type="radio"/>	④その他( )
4	評価結果(自己評価、外部評価)の公開	<input type="radio"/>	①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
		<input type="radio"/>	②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
		<input type="radio"/>	③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
		<input type="radio"/>	④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
		<input type="radio"/>	⑤その他( )
5	サービス評価の活用	<input type="radio"/>	①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
		<input type="radio"/>	②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
		<input type="radio"/>	③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する)
		<input type="radio"/>	④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む)
		<input type="radio"/>	⑤その他( )